

日 時：平成 28 年 6 月 1 日（水） 14：15～17：00

場 所：日本薬学会長井記念館 1 階 AB 会議室

出席者：別記 1

配付資料：別記 2

○報告事項

1. 薬学実務実習を支援する WEB システムについて

本委員会の前に行われていた WEB システム検討委員会について、業者の統一はできないが、どのシステムを使用しても同じような見目で操作できるように提案すると望月代表理事が報告した。今後は、WEB システム検討委員会にて作成した案を基に、業者等を対象に説明会を開催する予定である。

2. 平成 27 年度第Ⅲ期実務実習実施状況

平成 27 年度第Ⅲ期実務実習に関わる各地区の報告書（資料 1）を事前に中央調整機構委員へ配付した。本委員会では本報告書の内容について、特段の報告や意見は出されなかった。

3. 平成 27 年度事業報告、監事監査報告

平成 27 年度監査報告書（追加資料）、「2. 監査意見」のとおり、「(4) ③各支部の事業報告書及び事業計画書の様式を可能な範囲で標準化することが望ましい」と監事から意見があったと望月代表理事が報告し、各地区へ協力を求めた。資料 5（平成 27 年度事業報告（案））、資料 5-2（平成 28 年度事業計画）を参考にし、意見があれば事務局へ寄せることになった。

4. 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に伴うワークショップ

資料 4-1（薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に伴うワークショップについて）に基づき、オブザーバーとして出席した平田收正氏（薬学教育者ワークショップ実施委員会委員長）が、(1) タスクフォーススキルアップ研修会 (2) 認定実務実習指導薬剤師を対象とするアドバンストワークショップ (3) 認定実務実習指導薬剤師を対象とする説明会について説明した。

(1) タスクフォーススキルアップ研修会において薬学教育協議会に講師派遣を依頼する場合は、資料 4-2（スキルアップ研修会開催申請及びタスクフォース派遣依頼状）をもって依頼することを申し合わせた。

・薬学教育者ワークショップの受講資格について

資料 4-7（ワークショップの受講資格について\_日本薬剤師研修センターより）のとおり日本薬剤師研修センターより指摘があったため、修正した参加申込書（2016.6.1 版）を周知することを申し合わせた。

・平成 28 年度薬学教育者ワークショップの開催について

薬学教育者ワークショップ実施委員会（平成 28 年 5 月 18 日開催）において、平成 28 年度ワークショップは、資料 4-8 のとおり承認されたと平田氏が報告した。

なお、熊本県にて開催される第 56 回ワークショップについては、地震の影響により変更が生じる可能性があるとして原委員が発言し、変更がある場合は早めに申請することになった。また、追加開催がある場合は開催の 3 ヶ月前までに申請することを申し合わせた。

5. 広報用ポスターおよび受入施設証発行について

資料 7（平成 28 年度広報用ポスターおよび受入施設証発行枚数）のとおりポスターと受入衣施設証を発行したと阿刀田事務局長が報告した。なお、今年度はポスターの撮影を病院にて行ったので来年度は薬局とし、今後も病院と薬局交代で撮影すると望月代表理事が発言した。

○協議事項

1. 平成 30 年度の実習時期について

平成 30 年度の実習時期については、前回の中央調整機構委員会で意見がまとまらなかったため、資料 8-1（平成 30 年度の実習日程表（案））に基づき引き続き協議した。

協議の結果、全国で統一することを前提とし、以下の案について各地区にて再度検討し次回の中央調整機構委員会にて報告することになった。また、平成 31 年度の日程についても次回協議する。なお、実習期間を 55 日とするか 11 週とするかについては、文部科学省の見解を次回提示してもらうことになった。

<平成 30 年度実習日程検討案>

- ① 4/23 開始：期と期の間を 2 週間あける
- ② 4/23 開始：期と期の間を 1 週間あける
- ③ 5/7 開始：期と期の間を 2 週間あける
- ④ 5/7 開始：期と期の間をあけない

2. 「次回連絡会議に報告すべき事項」について(資料 9)

- ・次回連絡会議に報告すべき事項として、1) 4 期制の実施について 2) ふるさと実習について 3) 良い事例の抽出について 各地区が状況を報告した。

<北海道地区>

- 1) 4 期制、連続性について異論はない。ただし、I 期は進級判定等の問題が生じるため、II、III、IV 期を使う方向で検討している。
- 2) 毎年十数名受け入れているが、4 期制の時期を全国で統一しないと難しいのではないかと。北海道地区では 4 期のうち II～IV 期を使いたいと考えている。
- 3) 良い事例を集めたあとどのようにするかを示してほしい。報告書から集めてはどうか。

#### <東北地区>

- 1) 4期制の具体的なシミュレーションがまだできていない。グループでの実習を念頭に置いているが、特に8疾患をどのようにカバーするか、組み合わせが難しくまだまとまっていない。
- 2) 薬学部がない県に地区内からもどのように割り振るか議論になっているが具体的な解決策は出されていない。
- 3) 議論できていない。

#### <北陸地区>

- 1) 原則、薬局→病院の順番で行うと決定した。
- 2) ふるさと実習に出す予定はないが、受け入れはしたい。薬局と病院をセットで受け入れたい。できるだけ受け入れたいので、訪問回数を1回として後はスカイプを利用する等の対応も考えたい。
- 3) 誰にどのように配るか示されたら協力したい。

#### <関東地区>

- 1) 施設のデータベースの作成を検討している。
- 2) 関東地区では、同時期に地区外からのエントリーを受け付け開始する。他地区のエントリー時期を早めてほしい。
- 3) 事例を集めて共有したい。

#### <東海地区>

- 1) 4期制に反対はない。連続での実習ができるかシミュレーションを兼ねて調整を行った。薬局と病院の順番をどのようにするかについてはまだ結論が出ていない。
- 2) 薬学部や薬科大学がない地区に希望があれば行う。希望を調査する時期を合わせたい。
- 3) 特に意見は出されていない。良い事例だけでなく、悪い事例も抽出してはどうか。

#### <近畿地区>

- 1) トライアルを実施する。
- 2) 薬局と病院をセットにすることについて、傾向として、病院をふるさとで行う学生が多い。セットにすると両方地区内でやりたいという学生もいる。  
調整時期については他地区との関係もあり難しいが、これから相談していきたい。
- 3) どのように集めるかこれから考える。

#### <中国・四国地区>

- 1) 薬局をⅠ～Ⅲ期、病院をⅡ～Ⅳ期で行うことの確認はとれている。カリキュラムの関係で、スタート時はⅠ期の利用が難しいかもしれないが、いずれはⅠ期を利用するよう今後検討していく。  
次施設にどのように引き継ぐか、WEBなどを利用し切れ目のない実習をしていきたい。
- 2) 薬学部、薬科大学のない県から来てほしいと言われるが、中々難しい。逆に近畿地区や関東地区からエントリーがあれば受け入れたい。エントリーの時期を早める努力をする。
- 3) 特に発言はなかった。

<九州・山口地区>

- 1) 4期制に反対はない。順番や期については今年度引き続き話し合う。薬薬連携の問題、次の施設において実習内容を確認できるようにしてほしい。
- 2) 基本的に受入側となっている。九州・山口地区では、大学がある地域で実習を行う申し合わせになっているので、他地区から大学がある県にふるさと実習の希望があっても受け入れられない。
- 3) 特に発言はなかった。

・日本薬剤師会、日本病院薬剤師会の施設要件を踏まえた受入数について

日本薬剤師会は、受入数を「原則2名」とするか「2名」とするかについて持ち帰り検討する。日本病院薬剤師会は、受入数を決めない方針である。

3. 臨床系（実務家）教員の再研修（仮称）について

特に議論はされなかった。診療補助従事者という名義で問題ない。なお、実務家教員の立場について、次回文部科学省に説明してもらうことになった。

4. その他

・改訂モデル・コアカリキュラム対応の実務実習に関する大学に対するアンケートについて

今の2年生を対象として、6月に文部科学省から74大学に向けてアンケート調査を行なうことを平田氏が説明した。

・トライアル実習について

平成31年度からスタートする改訂モデル・コアカリキュラムにおける薬局実習について、円滑な導入を行うために、日本薬剤師会が作成する「(仮称)薬局薬剤師のための実務実習指導の手引き改訂版(案)」に基づいて学習成果基盤型教育における評価方法を用いて、トライアル的に実習を行うと生出委員と永田委員が説明した。詳細については資料10(トライアル実習について(日本薬剤師会資料)参照。

・次期より須田業務執行理事は、関東地区調整機構の事務局長になると望月代表理事が報告した。

以上

別記1 第29回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会出席者名簿

所属	出席者名 (敬称略)	出欠
北海道地区調整機構	宮本 篤	○
東北地区調整機構	工藤 賢三	○
北陸地区調整機構	新田 淳美	○
関東地区調整機構	伊東 明彦	○
	吉山 友二	オブザーバー
東海地区調整機構	長谷川 洋一	○
近畿地区調整機構	橋詰 勉	○
	西野 隆雄	オブザーバー
中国・四国地区調整機構	手嶋 大輔	○
	島田 憲一	オブザーバー
九州・山口地区調整機構	原 周司	○
日本薬剤師会	生出 泉太郎	○
	永田 泰造	○
日本病院薬剤師会	遠藤 一司	欠
	石井 伊都子	○
日本保険薬局協会	原 正朝	欠
	佐藤 頼子	代理
薬学教育者ワークショップ実施委員会	平田 收正	オブザーバー
薬学教育協議会本部	望月 正隆	○
	阿刀田 英子	○
	須田 晃治	○
日本チェーンドラッグストア協会	小田 兵馬	
文部科学省高等教育局医学教育課	前島 一実	○
	亀井 大輔	○
厚生労働省医薬・生活衛生局総務課	岩井 遥香	○

**別記 2** 配付資料

- 資料 1 : 平成 27 年度第Ⅲ期実務実習に関わる各地区の報告書
- 資料 2 : 支部運営規則 (確定版)
- 資料 3 : 中央調整機構委員会規則 (確定版)
- 資料 4-1 : 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に伴うワークショップについて
- 資料 4-2 : スキルアップ研修会開催申請及びタスクフォース派遣依頼状 (案)
- 資料 4-3 : タスクフォーススキルアップ研修会 (1・2 日コース)
- 資料 4-4 : アドバンストワークショップスケジュール (1 日・半日コース)
- 資料 4-5 : ワークショップスケジュール (タスクフォース用)
- 資料 4-6 : ワークショップスケジュール (参加者用)
- 資料 4-7 : ワークショップの受講資格について (日本薬剤師研修センターより)
- 資料 4-7 : ワークショップ参加申込書 20160601～
- 資料 4-8 : 平成 28 年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ開催申請リスト
- 資料 5 : 平成 27 年度事業報告 (案)
- 資料 5-2 : 平成 28 年度事業計画
- 資料 6 : 平成 27 年度収支報告書
- 資料 6-2 : 平成 28 年度予算
- 資料 7 : 平成 28 年度広報用ポスターおよび受入施設証発行枚数
- 資料 8-1 : 平成 30 年度の実習日程表 (案)
- 資料 8-2 : 各地区からの意見
- 資料 9-1 : 次回連絡会議に報告すべき事項
- 資料 9-2 : 良い実務実習事例記載例
- 資料 10 : トライアル実習について (日本薬剤師会資料)
- 第 29 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会議事録
- 追加 : 監事監査報告書